

第 29 期第 1 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 平成 31 年 1 月 25 日（金）10 時 00 分～11 時 45 分
市役所上杉分庁舎 12 階 教育局第 1 会議室
- ◎ 出席委員の氏名 遠藤仁委員、石川俊樹委員、
加藤則幸委員、菊地崇良委員、小林直之委員、
今野広元委員、菅原孝代委員、杉山秀子委員、
渡辺祥子委員、渡邊千恵子委員、渡辺通子委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 武者元子、市民図書館副館長 高橋泰、
宮城野図書館長 柴田聡史、若林図書館長 佐藤文博、
太白図書館長 武山剛久、泉図書館長 福井健司、
広瀬図書館長 相澤滋、榴岡図書館長 中里省一、
市民図書館企画運営係長 富田直美、
市民図書館奉仕整理係長 山田千恵美、
市民図書館企画運営係主任 柴山玲子、田上マリ子
- ◎ 会議の概要
- 1 開 会
 - 2 教育長挨拶
 - 3 委員自己紹介
 - 4 会長・副会長の選出
石川俊樹委員から、会長に遠藤仁委員、副会長に渡辺通子委員の推薦があり、全委員より承認された。
 - 5 会長・副会長挨拶
 - 6 館長挨拶・事務局紹介
 - 7 議長の選出
仙台市図書館条例施行規則第 14 条第 3 項に基づき、遠藤仁会長が議長となった。
 - 8 会議録署名委員指名
会長より、渡辺通子委員を指名。
 - 9 報告事項
(1) 仙台市図書館について
市民図書館副館長より、資料 1 に基づき説明。

〔委員からの主な質問・意見〕

議長

図書館の機能強化等と言われる中で、仙台市図書館は地味であっても着実に事業を実現してきた。今回、第 29 期の新しい委員の皆さんに、これまで外側からどのように仙台

市図書館を見てきたかも含め、コメントを頂きたい。

渡邊千恵子委員

社会教育委員を務めた時に榴岡図書館と太白図書館を視察したことがあり、事務局の概要説明は概ね理解できたと思う。仙台市図書館のさまざまな事業は、他都市に比べてどうなのか、優れた取り組みをしている地域はほかにあるのか、これから目指したいと思うような特徴ある他都市の図書館などがあれば教えていただきたい。

議長

図書館の仕事は地味な仕事やルーティンワークが多く、大きく変えることが難しいこともある。また、仙台市の場合、宣伝が控えめでうまく伝わっていないことも多い。良いお知恵を頂戴しながら、仙台市図書館をよりよくしていきたい。

杉山秀子委員

私は、学校で子どもたちに本のお話をする活動をさせていただいているが、図書館に行ったことのある子どもの数がなかなか増えない。学校の図書室でおさまってしまう。図書館の方々がブックトーク等で学校に入っているのはとても良いが、子どもたちに地元や市内の図書館の存在をアピールするにはどうすればよいのか考えている。特に、本に全く興味を示さないお子さんに対して、日々の活動の中で何かできればと思っていた。

議長

子どもたちの読書推進として、読書通帳はかなりの部数を配付したのではないかと。それ以外にも、バックヤードも含めた児童向けの見学なども行っていたと思うが、事務局いかがか。

事務局

読書通帳は、今年度だけで6千冊を配付した。また、学校の授業の一環として、各図書館を社会見学としてご利用いただくこともあるほか、中学生の職場体験にも協力させて頂いている。市民図書館では、夏休みに「1日図書館員」と題して、希望する小学生が仕事を体験するイベントも実施しており、さまざまな機会を捉えて、図書館に興味を持つきっかけづくりに取り組んでいる。

議長

小中学校と図書館の関わりをどう持つかは、非常に重要な事である。委員の皆さんからお知恵を拝借しながら施策に盛り込んでいきたいと思う。

菅原孝代委員

学校現場では、まず子どもたちが学校の図書室に向かうようにするにはどうするか、ひと工夫しなければならない。本を手にとって「本っていいなあ」と思ってもらうためには、図書室に向かわせるような経験を、ある程度先生方が一緒に積ませていかないと、なかなか自分で図書室に行くようにはならない。

先ほどの説明を聞き、図書館ではさまざまな事業に取り組んでいると感じた。夜の図書館を活用した講座などは、普段あまり図書館に来ない方に図書館の取り組みを知ってもらい、まず第一歩、足を運んでもらうということでは有効な方法だと思った。こ

のような工夫を凝らした取り組みを広報し、さまざまな方に知って頂ければいいと思う。

方向性2のところについて、私自身は学校でのブックトークが始まったあたりから、校内で図書の仕事をしていたので、当初ブックトークが希望制だったところから、できるだけブックトークを活用しようということとなり、4年生全クラスが対象になったという経過も現場で見えてきた。現在、小学校では、図書館のブックトークをととても楽しみにしている。ブックトークで紹介した本をそのまま貸し出してもらおうのだが、その次の休み時間から子どもたちがわっと群がって本を読む様子があり、いかに本と人を繋いでいくところが大事であるかを感じる。それを教員ができるかという、スキルや準備の問題もあり、テーマに対してどの本を組み合わせるか等は難しく、このあたりは今後も図書館の力を借りて、学校現場での読書意欲を向上していきたいと思っていた。

小学校の研究部会の図書館部会で副会長をしているので、例えば夜の図書館を活用した講座や、読書通帳などについて、図書館部会を通して普及させていきたい。

議長

学校との連携をどうするか、ブックトークの技術的なこともハードルが高いので、研修の機会が必要なのか等も含めて、今後議論していけたらと思う。

菊地崇良委員

3点あり、まず1点目、全般として若者の文字離れが進んでいるが、資料8ページでは、利用状況が横ばいとこのことで、意外と利用されているとの印象だ。しかし、これは5年間の話であり、過去何十年との比較や、あるいは今後どうなっていくのかをしっかりと研究していただきたい。特に今、国の施策としてもIT化が進んでおり、AIや学校現場においてもICTの普及導入が進んでいる中で、国全体として、あるいは地方自治体として、図書の効果や期待値はどこにあるのかを前提に、データを見て行くことが必要だ。

2点目は、社会教育委員を務めてきた中で、図書館の生涯学習における活用もさることながら、学校教育との連携に非常に興味を持って見て来た。その時、学校の意識によって利用や連携に幅や温度があるということが分かり、引き続き継続して見ていきたいと考えている。

3点目は、資料の中にも財源創出と書かれていたが、予算の執行率や効果をしっかり見ていく必要がある。他都市と比べた貸出数が、例えば蔵書数や敷地面積等に比して適切に行われているのかなど。公民連携が進んでいる他自治体の事例も参考にしながら、相対的比較の中で今後の方向性を考えていくとよいと思う。

加藤則幸委員

中学校でも図書の研究会があり、各学校から担当の先生が年に3回程集まり研修を行っており、市民図書館からも講師に来てもらったことがある。中学生は本当に本を読まないが、月1冊は読もう等の働きかけをしており、毎月「校長先生のおすすめの本」を紹介している。仙台市図書館のホームページで、ヤングアダルトへのおすすめ

の本が紹介されているので、そのような中から選び、4月から21冊の本を紹介してきた。子どもたちへは1日30分間読書をしようと呼んでいる。まずは先生方が読んで、本について話をするのがすごく有効だと思う。中学生はなかなか読まないが、どうにか図書館を活用できるようにということと、地理的にいろんな図書館に行くのはなかなか遠く大変なので、まずは読書習慣をつけるというところで今、子どもたちに働きかけをしている。読む子は100冊近く読むが、読まない子はほぼ0だったりする。読書通帳は良い。読書通帳があれば、振り返ることができるのではないかと。

議長

中学生は、受験も塾もあり、また読まないのか読めないのかどちらもあって、難しいところだと思う。

渡邊千恵子委員

高校では、今、探求型の学習が本格化しているが、そうするとテーマを決めて、さらに深い学びをしていかなければならなくなる。その時に図書館の役割として、文献や資料の探し方といったニーズに対応することが必要になると思う。もう一つは、高校はより地域と関わっていくという方向性が出て来ており、地域の文化的資本である図書館がどのように関わっていくかもこれからの課題になると思う。

議長

大学でも、入学時の初年時教育で図書館活用教育を導入して文献資料をどう活用してどうまとめていくかを教える時代になってきている。できないというより、さまざまな手段がありすぎるのだろう。メディアの多様化の時代でもあり、今後、年間を通して議論を進めてまいりたい。

10 協議事項

- (1) 平成31年度仙台市図書館運営方針・事業計画策定に向けた「重点事業」案について
市民図書館副館長より、資料2に基づき説明。

〔委員からの主な質問・意見〕

議長

(1)の震災文庫の活用について、学校教育の中で例えば防災教育の一環として資料を活用することなどはいかがか。

加藤則幸委員

防災教育は、実際には災害時の行動や対応の仕方が主なものになると思うが、確かに、震災を忘れないために図書館の活用というのは有効である。学校で活用できるような資料のセットで、調べることができるのなら良いと思う。

議長

パッケージ貸出のようなことは可能か。

事務局

現在も、学校向けのテーマ別パッケージ貸出「防災（震災関連・防災教育）」のセッ

トがあり、調べ学習に活用いただいているところもある。例えば、このように充実して欲しいなど、現場のニーズを確認しながら、さらに充実させていきたい。

議長

資料の活用の仕方などの簡単なマニュアルがあれば、より先生方も扱いやすいのではないか。

菅原孝代委員

ブックトークのテーマの中に「命の大切さ」があったので、それとリンクさせながら3.11震災文庫の資料なども紹介してもらっている。学校では、震災についての図書資料を多く所蔵しているところはないと思うので、そこは図書館の力を借りたい。防災の観点に加えて、命の大切さを伝えていくことに絡めながらのパッケージ貸出があるととても良いと思う。

震災の資料については、小学生でも分かる資料がなかなか少ないのではないかと、個人としても思う。写真集はどうかというと、これはあまりにも強すぎる。今、震災の記憶を明確に持っている小学生がほぼいない状態になっており、それを分かりやすく伝えるというと、物語風になってしまうがそれでいいのかどうか。さまざまなジャンルから小学生向きの震災の本があればいいということと、パッケージ貸出となった時に、多くの小学校に一齐に貸し出せるのかということもあり、次年度の検討課題にしていただければよいと思う。

小中学生だけでなく、大人に対しても、この3.11震災文庫の利用促進は非常に難しいと思う。いろいろな図書館に震災のコーナーがあるが、たくさん借りたり、たくさん読んだりする人は、私自身あまり見かけたことがない。収集については問題ないと思うが、活用促進の部分については、今後話し合っていく必要があるのではないか。

議長

(2)(3)についてはどうか。(2)の情報発信という点では、情報があふれる中で、図書館のPRがなかなか届かない。たくさんの人にただ来てくださっていただくだけではだめで、リピーター向けの呼びかけであるとか、重点的にニーズを掘り起こしていくことも必要だ。委員の皆さんから他に意見があるか。

菊地崇良委員

この重点事業案は、図書館のこれまでの連続した取り組みを分析の上、絞り込みをして作ったものと思うが、今期の何人かは新しく委員となった。もともと、図書館にどのような期待があるのかを共通認識として持たないことには、コメントが難しいところである。なお、インターネットで全て調べられる時代に手に持つことのできる本がなぜ成り立つのか、今後認識を統一していきたい。

(1)の「3.11震災文庫」についてであるが、震災から8年が経とうとしていて、風化が進んでいる。しっかりと後世や世界に発信していくのが仙台市の方向だ。国も他都市も、防災と言えば仙台というのが今の評価である一方で、まだ取り組みが追いついていない部分もある。今、荒浜小学校を活用して、震災の記録や防災文化を現地において体験する取り組みが行われている。しかし記録や資料のアーカイブをどうす

るかが仙台市の中で検討途上である。中心部にそういったものを作ろうという議論もあり、まだ決まっていないが、資料に記載の「情報収集」とは、その前段階ということか。市の防災環境都市・震災復興室ではたくさんの資料を持っており、さまざまな情報資料を持っている学校もあると思うがそうした実態把握は進んでいるのか。またここには、博物館との連携イベントと書いてあるが、博物館だけではなく、例えば荒浜小学校や他の社会教育施設と現地体験型の事業をすることもできる。博物館と切り切ることせず、博物館「等」との連携と表現してはどうか。

事務局

博物館との連携イベントだが、事務局としては、郷土資料の活用の例示として書いていた。郷土資料は歴史系が多く、その筆頭ということで博物館を挙げたが、ご指摘の通り、さまざまな関係施設・機関があるので表現を工夫したい。アーカイブとしての他機関との連携では、既に、図書館の資料を地下鉄東西線荒井駅にある「せんだい3.11 メモリアル交流館」に設置している。当該館は震災の経緯等を写真で見ることができ、失われた故郷を偲ぶ企画なども行われている施設だが、1階の図書コーナーに、図書館の蔵書を展示して自由閲覧に供しており、そちらを発信の窓口として連携を進めている。今後は、アーカイブの議論等とも連動させていかなければならないと思うので、それも含めた来年度の重点目標と思っているところだ。

議長

前期からの流れもあり、事務局のほうで重点事業をこの3点に絞っているわけだが、さまざまな事業がある中で初めて委員となった皆さんには分かりにくい部分もあると思う。「(3) サービススポットの効果検証」は、昨年度開設して効果検証が必要な状況である。「(2) SNSを活用した広報への取り組み」は、情報を発信しても、今ひとつ浸透して来なかった部分をどう打開していくかという所なので、それについては前期から継続の委員も特に異論はないのではないかと。これまで、協議会で出てきた意見については、事務局でその都度盛り込んで進めてもらう形をとってきた。今回出ていることについても、できるところから試行を進めてほしい。重点案の3つの柱立ては大きく変えずに、反映できる部分を盛り込んでいくということで事務局に整理をお願いしたい。協議会においては今後もなお活発な議論をしていきたい。

渡辺通子委員

3つの柱については賛同している。つまり方向性が4つあるので、この流れの中で大きな柱として出したという点は、なるほどと思う。まずは、図書というものの概念をどう捉えるかについては私個人としては、基本的にペーパーベースで考えており、活字をきちんと読ませたいとか、本の香りであるとか、本を開く感覚であるとか、それらを大事にしたい。しかし今、これだけICTが進む中で、それだけが図書なのかとも思う。特に仙台市の場合は、これまでいくつもの図書館があり、どれぐらいの貸し出しがあるのか、どのような人が来ているのか、などの情報を提供していただいた。図書館ごとに傾向が違ったり、市域も相当に広いことを私もここに来て勉強させていただいたが、それが中田サービススポットの設置につながっていると思う。ペーパーだ

けが図書ではないということ、例えば映像も図書である、音も図書である。私としても図書という概念がちょっと広がるよう、皆さんと共有したい。またSNSの活用に関して、では具体的にどのように取り組んでいくのかということをお知らせ願いたい。

菊地崇良委員

平成29年度、30年度の項目を見て行くと、図書館で事業評価をした上で、達成された、あるいは達成されなかったなどの経緯があり、31年度の重点案が出て来ているということでしょうか。

平成29年度に重点になっていた学校連携事業の資料貸出に関連して、確か、平成28年か29年に社会教育委員として視察に行った際に学校による温度差を感じたことがあり、その後どうなったのかと思っていた。当時も大事な取り組みであると評価していた。また、若林図書館の指定管理者制度についても、ほかの図書館の状況や、導入した結果良かったのかどうか等、継続して見ていかねばならない。31年度はこの3つの重点に絞ると、今言った部分はルーティンとして実施するのか、あるいはまだ過渡期であるのなら、この重点の4つ目として出てくるべきではないか。例えばこのサービススポットの効果検証とあるが、サービススポット1つに絞らず、他のものも含めて積み残した分も検証していく表現にした方がよいと思うので、検討はお任せしたい。

事務局

評価については、協議会としても図書館としても今試行錯誤を重ねている状況である。毎年協議会に実績を報告し、議論頂いているが、評価というところまでは明確にしていない。

平成29年度の重点からご説明すると、(1)図書館情報システムの更新は、順調に完了した。(2)サービススポットの設置に向けての調整も、今年度設置をしたので、終了である。(3)学校貸出資料返却時の資料配送の仕組みづくりについても終了で、これは学校の先生がわざわざ図書館に来なくとも、申し込みを頂ければ学校にお届けし、返却も配送業者が取りに伺うという配送の仕組みも整えて大変喜ばれており、(4)若林図書館の指定管理者の公募も終了している。現在若林図書館も含めて3館で指定管理者制度を導入している。指定管理者の評価については、結果を協議会にもお示ししているところだが、さらに今後どうしていくかは、検討とさせていただきたい。平成30年度の重点の状況だが、(1)「3.11震災文庫」の活用は、31年度にも継続になっている。これは進んでいないということではないが、被災都市仙台として、防災が都市ブランドにもなってこようかと思うので、図書館としても重点的に取り組みたいと考えている。震災資料もいずれ郷土資料になっていくものと思うし、郷土資料から歴史を知ることは図書館利用者に非常に人気のある分野であり31年度は震災と郷土の2本立てとしてしているところである。(2)ヤングアダルト世代(中高生)の読書支援は今も引き続きやっているが、わざわざ掲げなくても、それぞれ工夫を凝らしてやっていけるという手応えを感じており、次年度の重点からは外した。重点として掲げないものでも、例えば、図書館の魅力を伝えるイベントなどは工夫を凝らして実施できていると考えており、31年度の重点案には、図書館としてより努力が必要な点を挙

げている。30年度の(3)サービススポット設置に向けた調整も、サービススポットを11月に設置して、今運用しているので達成できており、(4)不明資料低減への取り組みだが、市民図書館に1月に盗難防止装置を設置し、太白図書館についても3月に設置するというところで進んでおり、これも達成であるため、31年度の重点には入れていない。

議長

事務局から、昨年度までの状況について説明があった。本日、ご意見いただいたところは盛り込んで重点として取り組んでいければと思うが、よろしいか。

委員

了解。

11 その他

事務局

市民図書館長から配布資料について説明。

渡辺祥子委員

既に取り組まれているかもしれないが、県内在住の児童文学作家の方々が本当に素晴らしい本を出されている。本とふれ合うのもよいが、児童文学作家の方とふれ合うことも、子どもたちにとってはまた違った面が開かれるような気がしている。こうした地元の方の本を積極的に紹介するとか、お招きして子どもたちとふれ合う機会を作るのもよいのではと感じた。

事務局

年に1度開催している児童文学者講演会は、割と中央の方をお呼びしていたところだが、地元の児童文学者の方も検討してもよいかもしれない。

やはり図書館としても、地元の文学者との繋がりを作ることや、子ども向けや大人向けなど幅広く取り組みをし、いろいろな形で読書推進に繋がればとよいと思う。

議長

委員の皆さまには、今後とも活発なご意見を頂ければと思う。次回の協議会の日程につきまして事務局からご提案願う。

事務局

事務局から次回の協議会の日程について連絡。

議長

以上で議事を終了する。

12 閉会